



書札傳
創札

ワ 3
7072
8



書札
口傳

副札
あり

73
7072
8

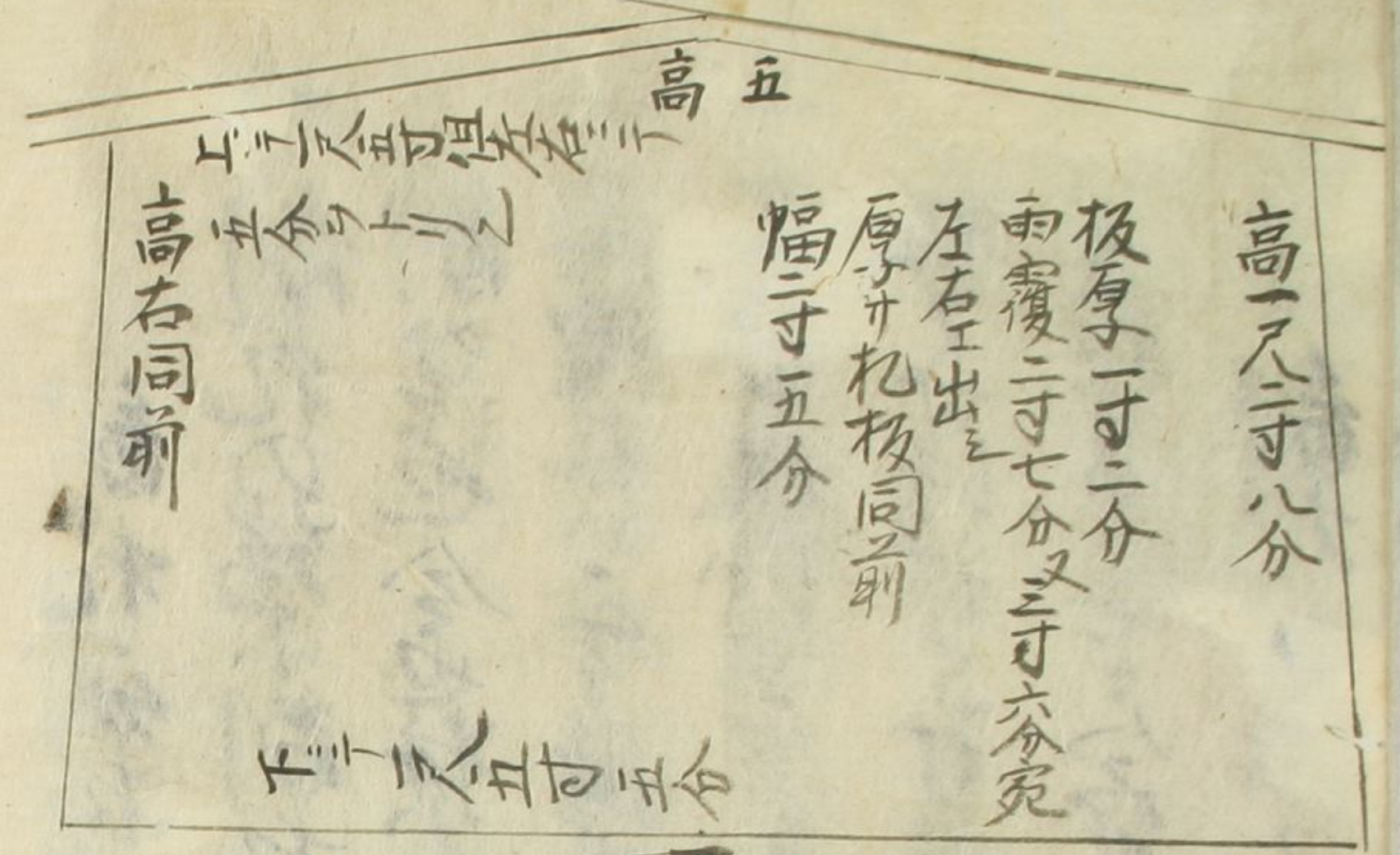


- 一 制札親札附切法之變
- 一 同陳酒和之事
- 一 同書護酒和之變
- 一 高札個和附板可法之變
- 一 札板約衣某頭必傳之變
- 一 寺方制札之事
- 一 張新造初打派之變
- 一 進改之變

- 一 南府札之度
- 一 獄門札調極 附板可法之度
- 一 罪人札吊く之事
- 一 磔書調極之度
- 一 道中宿札調極之事
- 一 棟札調極之事
- 一 下馬札之度

削札調極之度

- 一 削札の端小削札と云ふ事棟小削と調極利削之法也令也棟小止也戒也
 - 一 同澤板の二ヶ澤也日公ハ澤と云ふ之は澤也
 - 一 同澤板法用度事或之若格板法用何物也
 - 一 板之可法計ハ打板記之
 - 一 望板字と云ふ守幅守癖守七分傳
- 削札可法之度

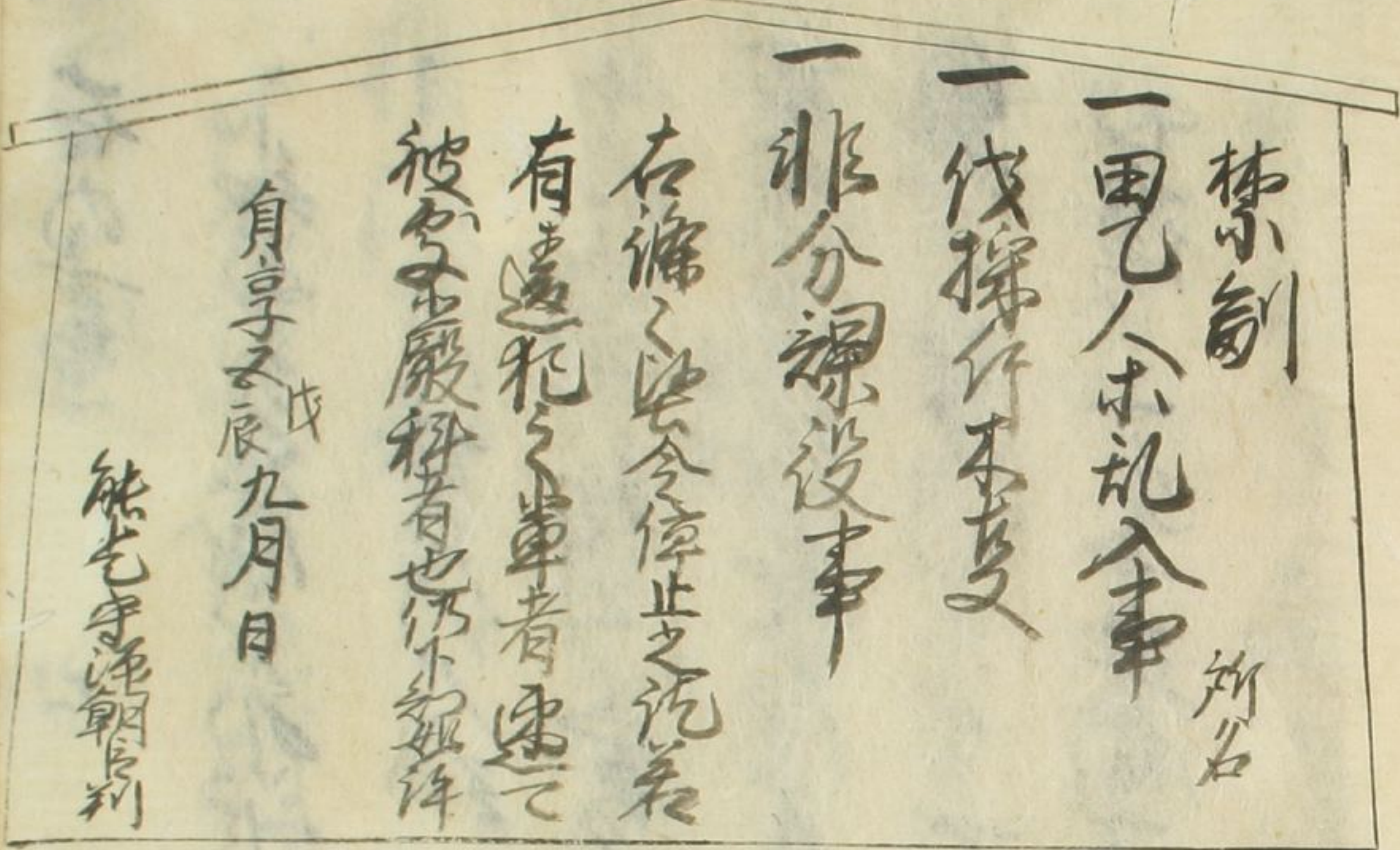


三 満足 足

此所長久 此所長久

二 皆令 皆

九度打也各得 十度打也



禁制

一 用乙介礼入事

一 伐採行本支

一 非分課役事

右端之屋令停止之況若
有違犯之輩者速て
彼を不殿科者也仍下知許

貞享^戊九月日

能光寺澤朝長判

此箇一 公儀の礼の支事と申の
事此間も林事乃をせする所此
名の制の中と違てか申事と違
此を圖に指くわす所におき書
すり此をわす所の酒あり右出り
年号の来引の通るる事あり
月日此集の酒あり右出り此
は酒なりと右人の氏斗也此
の事なりと申す
仁徳寺澤朝長判
此の字依り稱して之を記又
右端の事と申すは依り右の酒あり
何と申す傳

一右の書紙何れも首尾被作知也仍中知也作在

一丁紙紙の公儀より不調りぬ也也守権札たる也

一月日中に在り人判形ありぬ也公儀御新紙給之

个紙の何れも神号字在末に不書物之判形示す権

軍員鑑判に在りぬ也^{御書}在り人判形示す公儀

奥の書紙何れも在りぬ也

一右の書紙一文字此間一寸部分又の一寸部分在

書紙何れも被_レ隨_レ何れ一寸二分宛り三紙の書紙

右の書紙一文字と事書此間一寸何れ

一^年集書の一文字に在りぬ也一他重判の書紙何れ

一紙と云ふも不_レ書_レま_レる_レ事_レありぬ也

一紙の何れも在りぬ也何れも法度と事との也

一押後と知事と在りぬ也此令と長文の之の

字と云ふ事知別是ぬ也公儀に在りぬ也

一右の書紙何れも在りぬ也

一制札續禮之支初に禁制と云ふも
その也甲乙余礼禁制中と云テ條
くよ汝の海りて續と云

一制札續三礼越中法調と云は
家待亦礼戒をり心と青礼儀と正
くあ人と細はるる子礼徒をり
同又言礼と云は所相又青負買亦
礼事と謂れよと云は所人百也云此

戒也云云思ふと云は亦家待也と云は
亦云云記之

陳中制札之支

禁制

- 一 軍饒中七人礼入粮籍事
- 一 陳取放火人事附下知留
- 一 諸勝身酒家遊女等事
- 右條々其被停止之況若有
- 違犯之輩者可被申嚴科
- 者也仍下知也件

應永元三月日

能登古海船屋五

陳中先の形に越之
文評と後からく好意可
か之語有り
公儀此札之文身介之
事、南の軍勢と
洞を介らる儀此制
杞細如し可

禁制

所名

- 一 盜賊狼藉事
- 一 放火人等
- 一 博奕事
- 右條々其被停止之
- 状也仍執達也件

天文八年二月日能登古

古儀制札

乞の古儀の制札なり
禁制と云ふは其の目
の中より別を之し人
に依りて能登と計也
之也古法より実々
別御事と云ふは其の
事社事此その事
依りて古儀なり

定

一博奕一切停止

一喧嘩比備停止

一押賞押責停止

右條之被定者其之治着
於遠省之奉者可被
至罷科名仍下知件

年号月

室敷者未判

能守海防

高礼

高礼之定之例也林制者
恒和神之言也相交て
一令條之刑以有
奉行人之友之友樹
有官其時之友自其
之友也人之國而能之友
の信不之半なり

一右の公儀之極紳多し其藩此回の定條之申下

調下知と除也之時の執達が件之仍知件也

毎月月此下其官陣調下し其月の定條之申下

一板寸法之定之條之條之時の制札等也其多之時

七人五人也其申下之時の言廿二人守之定

其申下之時の申下也其申下之時の申下

同申下之時の申下也其申下之時の申下

一端之申下之時の申下也其申下之時の申下

用也。殺端。腫くと洞の。圍めたる腫くと
書用補有り存く有古く越拓と我なり此條を
第之小枝なり此清は約ふ一條。此は也
一條之確本控等。洞始何もらう心也。洞洞
一。治法之。好右記之。一條。秘めたる也
洞

一。法度と洞多し。是。非。此。相。交。書。之。前。記。公
性。極。殊。也。其。法。度。と。斗。子。重。更。也。其。也。

假。或。法。度。及。拓。と。よ。何。め。と。是。之。洞。因
一。扱。と。其。私。法。め。さ。う。多。之。下。此。法。式。被。改
自。介。以。後。也。其。定。と。云。後。用。之。子。利
一。副。札。多。札。し。亦。諸。札。の。基。頭。の。形。札。等
經。本。以。云。切。極。め。う。經。本。以。好。し。と。其。利。等
秘。事。也。及。右。記。之。同。之。札。の。起。り。は。淺。也。其。札
双。路。と。云。檢。札。欄。二。此。札。極。よ。自。業。め。た。其。路
之。力。單。法。被。書。者。さ。う。其。別。なり。と。其。下。

禁制

- 一 寺内坊舎押合令寄當
- 一 於山林野採行申支^附罪
- 一 至寺中殺生支
- 一 石佛^之與念^之停止^之說者支
- 一 違犯^之諸者^之忽可^之被^之支
- 一 嚴科者也依^之律^之科^之律

文安三年二月日

住持守^之禁^之制

是の法中^之又^之法^之成^之可^之
 公^之候^之不^之任^之寺^之方^之也
 違^之方^之枚^之の^之寸^之法^之酒^之也
 者^之希^之れ^之あ^之ら^之し^之候^之也
 杞^之小^之量^之繼^之と^之傳

- 一 施^之の^之と^之乞^之事^之清^之下^之知^之候^之有^之領^之を^之調^之書^之儀^之へ^之き^之と^之云
 - 一 道^之の^之と^之乞^之事^之施^之の^之と^之字^之部^之奉^之の^之一^之と^之云^之儀
 - 一 去^之月^之何^之日^之何^之所^之か^之之^之方^之に^之被^之相^之觸^之也^之と^之云
 - 一 打^之後^之と^之申^之道^之の^之と^之字^之部^之奉^之の^之と^之云^之儀
 - 一 乞^之事^之の^之儀^之と^之云^之候^之に^之何^之儀^之と^之云^之候^之可^之や^之付
 - 一 者^之也^之と^之云^之候^之に^之何^之の^之物^之子^之と^之云^之候^之
- 徳政^之之^之札^之御^之令^之
- 一 家^之尾^之浦^之田^之畑^之等^之に^之年^之次^之に^之奉^之給^之候^之に^之亦^之被^之給^之

一 借物金銀茶紙五限程年一の借借出さるる
一 貨物と云ふ及元利沙流計流す

右之通程の港政平急院家先也流し流す
此之志不依様手之被交元利付る也仍執定
御

年号の月

右取立の紙也元利等一の月のおも依下一は
港政の札よのさう必指板は月さう是さうと
と海は法をさう

一 苗産之後立札之受

け川筋におおし
教生おこし
魚のさうさうさ
なり
月自

今此の借事、此は二回書端
此者もよ年の必、由續
さうさうと様くさうさ
て月の計年考、所、を置板
候、同、苗、元、の、後、前
二、文、字、を、置、り、候、事
お、を、依、

一獄門之受寸法八寸四寸也此由授事也

斬罪人

河内國之安那井田に之者也
去八月十二日之曉一系於柳原人也
斬之なり一も道力も奪ふなり
如律法科目なり一あきらめ
たしなくけしせん此上令旬首也
年号月日

此國片也
之京と云ふは
聖代の御下
文云ふは凡人の
合はらざるや
相違なり
此也又云ふ
と云ふ

左形之鐵形一之罪也依て端事也

斬罪人罪 盜賊

流者之氣も多し多し之流者も
流者之氣も多し多し之流者も
流者之氣も多し多し之流者も

傳事連門流者下一同
流者之氣も多し多し之流者も
流者之氣も多し多し之流者も

年号月日

切事入流成敗此也
左形之鐵形一之罪也依て端事也
流者之氣も多し多し之流者も

一宿礼調極之事

何村苗月十二日之晩止宿同下宿

辰 三月廿九

小笠原右近守

去板ノ洞宿より先達者渡宿より前後ノ
立ちまへ——宿前より立ちまへ——

三月亦七日之晩

堀丹波守

宿

又也新と吾体北河の吾体と也——

堀丹波守

海海宿

下宿

堀丹波守

七宿者

堀中下宿より也新より上者諸宿其外也
堀中下宿より也新より上者諸宿其外也
堀中下宿より也新より上者諸宿其外也
堀中下宿より也新より上者諸宿其外也

畿國

奉修造

石清水

八幡宮

為武運長久
志願成就也

宮殿 一宇
前

年月日

從五位下能登守源姓常榮朝臣

白

釣命奉行

秋山宗正常殿系

高田東市正貞初

工匠

中村圭水正元次

裏板也

如新殿之北有信書可武運と云之新子神也

此書可之定法得同又嘗佛殿等之司前

何之部

觀音大菩薩

川

佛殿 一宇

年月日

住持名

裏右同斷

惣身形あり建立此因の物見形中喜捨の事
初より又惣身中之時は出来ぬ等と云ふ之百姓
年々の時分何村人氏等又惣身性及個々利
権札秘事と之と云ふは皆記之

一棟札寸法柱より木系十二面之曲尺等石秘事
なり一團一人此傳授せよ家依之石記之

一 下馬札又ニ字札と云

下馬

ニ字札 洞始板ノ縁紙ノ身首ヲ板洞ニシテ
名義并ニ生年死活ノ息ヲ記スル
ナリ 又 和事ノ名義ノ神前傳前此
洞始板ノ身首ヲ板洞ニシテ

一 古物 げすいノ事別ニ秘事ヲ 遺三川 （四ツカゲツル）

撰ニ川形札事あり又物後ニ記スル
（半合）
傳ニ事傳あり何ニ傳授メ
日記小ニ記スル

